

2019年度保育園の自己評価

オレンジ保育園

1、保育理念・保育観		評価	評価の根拠・改善方法
1	保育士一人一人が、オレンジ保育園の保育理念・保育方針を理解している。	B	新人研修や全体研修の場で理事長、園長、主任より具体的に伝えている。
2	オレンジ保育園の保育方針を理解して保育計画が立てられている。	B	保育園の全体的計画から各年齢の年間指導計画 月案、週日案へと繋げて作成している
3	常に保育方針や保育観を確認できるような機会を作っている。	A	園内研修を行い、グループワークや振り返りを行っている。
4	一人一人の主体性を大切にされた保育をしている。	A	子どもの思いを大切に、一人一人に寄り添い指示、命令を使わず、子どもの興味、関心を引き出すように保育を進めている。
5	保護者の子育てを支え、子育ての喜びを共感している。	B	保護者参加型の行事を多く取り入れ、子どもの成長の姿が感じられるように工夫している
2、保育計画・指導計画			
1	保育方針の、ねらい及び内容が達成できるような全体的な計画や保育計画を立てている	A	保育所保育指針に基づき、全体的な計画、乳児、3歳児未満児、3歳児以上の年間保育計画を立てている
2	保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して年間計画、月案、週案を立てている	A	子どもの姿に合わせ保育計画を基に、年間指導計画、月案、週案と保育内容を落とし込み計画を立てている
3	3歳未満児は、現在の姿を理解し、見通しをもって一人一人に応じた保育計画を立てている。	A	一人一人の発達に合わせた個別の年間計画を立てている。
4	配慮が必要な子には、その子に応じた保育計画を立てている。	A	配慮が必要な子は個別支援計画を立て保護者と共通理解の基保育を進め、年間2回の巡回相談も行っている
1	食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている。	A	食育年間計画を立てて、地元や旬の食材の栽培や収穫をし調理したり、季節に合った食育体験が出来るようにしている。
2	調理士、保育士等が連携し、会議等で意見を交わし合いながらより良い給食になるよう努めている。	A	毎月1回、給食会議を開き、各年齢の給食状況や嗜好調査、食育活動の様子など話し合っている
3	出来るだけ地元の食材や旬の食材を取り入れ、様々な食材を味わえるようにしている。	B	地元の青果店から食材を取り入れ、珍しい食材等は展示し食への興味、関心が持てるよう
4	給食やおやつは手作りをしている。	A	自園調理を行い、離乳食、アレルギー食へも対応し毎日手作りの食事、おやつを提供している
1	職員の仕事や役割が明確であり、連携を取って円滑な園経営が出来ている。	B	職員一人一人の役割や仕事内容を表にし、お互いに連携が図れるようにしている。
2	危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が出来ている。	B	毎月ヒヤリハットの集計を行い、全体研修や職員会議で事例検討会を行っている。
3	職員が割り当てられた業務負担を把握し、園の保育や内容を深めるために、それぞれが活発に活動している	A	役割分担された業務を行い、企画書や報告書を提出している
4	園内研修と園外研修の計画を立てて実行している。	B	個々の研修や毎週、毎月1回の年間研修計画を立てて実施している。
5	施設整備や遊具等の安全点検を行っている。	A	毎日の早番、遅番のチェックや週に1回日程を決め遊具等の安全点検を行っている。
5、保護者支援			
1	保護者と良好な関係をつくろうとしている。	B	玄関当番を設け積極的に、挨拶・声かけを行いコミュニケーションを図れるようにしている。
2	園の保育内容や子どもの姿が分かるような発信をしている。	B	クラスだよりやブログ、玄関先のホワイトボードを活用し掲示、お知らせや園での様子を掲示している
3	保護者の状況を理解し、個人情報の漏洩に気をつけている。	A	ICTの導入も含め、園の重要事項説明の中で個人情報の取り扱いなどを了承を得て、漏洩に気をつけている
4	子育てのパートナーとして、保護者の子育ての大変さや悩みを理解している。	B	お便り帳や送迎時に口頭で、園や家庭での様子を話し合い、成長を共感するようにしている。
6、子育て支援			
1	地域に開かれた、日々子育てをしている親子を受け入れている。	C	毎週火曜日に子育て応援デーを設け、園見学を訪れた親子へ案内を行っている。
2	地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている。	C	親子で、保育体験が出来るように応援デーを設けているが利用者が少ない

3	子どもの心身の発達や育児不安について、気軽に相談できるようにしている。	B	意見要望や相談受付窓口を設けている。また、クラスだよりにてご意見欄を設けている。
4	園生活の子ども様子を地域にも発信している。	B	ホームページを開設し、週に2~3日ブログアップを行っている。

7、小学校や地域社会との連携

1	定期的に小学校と交流を行っている。	C	直接、小学校との交流は少ないが法人内の学童さんとの交流は定期的に行っている。
2	定期的に小学校やこども園との会議や職員交流を行っている。	B	近隣の施設(保育園、学童、児童館など)で情報交換会を行っている。
3	高齢者施設との交流を深め、高齢者の方を敬う気持ちを育てている。	C	高齢者施設を訪問し交流を行っている。

A:よくできた B:できた C:一部改善が必要 D:改善しなければならない

園全体の評価

オレンジ保育園の理念に、「共に育て共に育ち合う」を掲げ、子ども達への関わりでは一人一人に寄り添い丁寧に関わるなかで主体性を尊重する。保護者と子どもを通して、保育・子育てについて成長を共に喜び共感できるよう、今年度は以下のことを意識し取り組んだ。

- ①「子ども達への指示、命令、禁止後を出来るだけ使わない」
- ②「子ども達を待たさない」
- ③「子どものやる気を引き出す」

これまで一斉保育(設定保育)や管理保育(大人が主導)を、子ども達が自ら主体となって遊びを通して学んでいく保育を実践し、「どこまで子どもの思いを受け入れるのか。」「子どもがやりたい事全て受け入れていくのか。」など難しさや戸惑いも多く何度も職員会議を行い、子ども同士のやり取りにある、気付きや思いを引き出し一緒に考え、学び合っていく保育を実践していきました。まだまだ、手探りではあるが、子ども達のやりたいを引き出せるよう環境を整え楽しく関わっていきたいと思う。

保護者との連携は、お便り帳の記入を簡素化し、伝達事項や相談事など上手く意思疎通が図れていなかった部分もあったが、利用者アンケートでは、職員への思い、保護者一人一人のモラルなど保護者の方々から、たくさんの励ましのお言葉を頂き大変嬉しく思います。これからも保護者と連携をとり、ブログや玄関先のホワイトボードを活用し、職員から積極的に声を掛けコミュニケーションを図っていきたいと思う。

今後の課題としては、子ども達の”やりたい”に寄り添い、遊びが実現できるよう保育環境を整え、思いを引き出しながら、子どもが主体となるよう、子ども達と一緒に考え、保育を進められるようなほいくが実現できるよう努めたい。

また、地域との交流を積極的に行うためにも、園からの情報を発信し地域の方が利用しやすいよう努めていきたいと思います。